

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成24年6月  
千葉市（千葉県）

## 全体総括

○計画期間：平成19年8月～平成23年3月（3年8月）

**1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）**

認定された基本計画に基づき、『経済活力に満ちたまち』、『文化が薫り都心の魅力があふれるまち』、『多彩な交流と出会いを育む賑わいのあるまち』を目指し、各事業を実施したところ、千葉中央第六地区再開発事業による「きぼーる（千葉市科学館、子育て支援館、ビジネス支援センターなどの公共公益施設や商業施設等が入居する官民複合施設）」が、当初の予想を上回る利用者数を集め、中心市街地の拠点施設としての機能を確立している。さらに、「きぼーる」では、アトリウム（イベント広場）利用が年間稼働率60%を超えるなど、土日を中心に集客力の高いイベントが開催され、中心市街地活性化に寄与している。

また、中心市街地活性化に向けて重要な役割を担う栄町、千葉銀座商店街環境整備事業についても、平成22年度に竣工し、商店街等、地域が連携するソフト事業を中心とした商店街活性化への動きがみられる。

なお、平成20年秋の金融危機を背景とした経済状況の悪化により特定建築者が決まらず、事業の遅れが生じていた千葉駅西口再開事業については、平成22年10月に特定建築者を決定し、平成23年度に工事着工、平成25年度工事完了予定と着実に事業が進められているところである。

**2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）**

基本計画に位置付けられた48事業のうち、完了・実施中事業は39事業と全体の81%を超え、また、内容を一部変更しつつ実施している事業を含めると45事業となり、全体の94%となっている。

CHIBA CENTRAL TOWER整備事業や千葉中央第六地区第一種市街地再開発事業などの取組みにより、平成19年度当初から平成22年度末までの中心市街地内の人口は、市の人口増加率（103%）を大きく上回る増加率（128%）となっているものの、平成20年秋の金融危機の影響により数値の上では目標を上回ることができなかった指標もあるが、上記「1.」のとおり、集客力のある拠点施設が確立し、賑わいが創出される等、中心市街地の活性化は図られた。

**3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（千葉市としての見解）**

中心市街地活性化ソフト事業について、市補助ができなくなった場合でも、地元団体単独で事業継続・代替事業の実施をするなど、活性化の意識が高まっている。

また、拠点施設を活用したイベント開催が頻繁に行われることで、施設利用者及び歩行者通行量が一部増加する等、活性化寄与の一因となっている。

**4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて（協議会としての意見）**

重点ハード事業として計画されていた「千葉中央第六地区市街地再開発事業」「栄町商店街環境整備事業」「千葉銀座商店街環境整備事業」の完了に加え、多彩なソフト事業の実施により、中心市街地内の回遊性の向上、集客力強化へと繋がってきていると考えている。

引き続き、行政と民間が連携しながら、まちなかプロムナード活性化推進事業を実施し、また西口再開発事業の着実な事業展開により、さらに、中心市街地が活性化するものと考えている。

## 5. 市民意識の変化

### ◇ 賑わいについての意識・評価アンケート調査にもとづく把握・分析

#### i. 調査実施時期

平成 19 年、平成 23 年

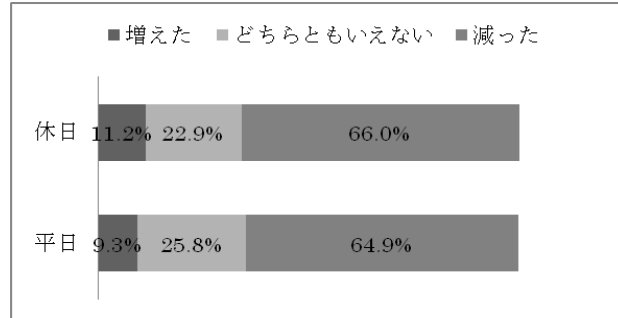
#### ii. 調査対象者・サンプル数

中心市街地内の商業者へのアンケート調査(H19:199 サンプル H23:106 サンプル)

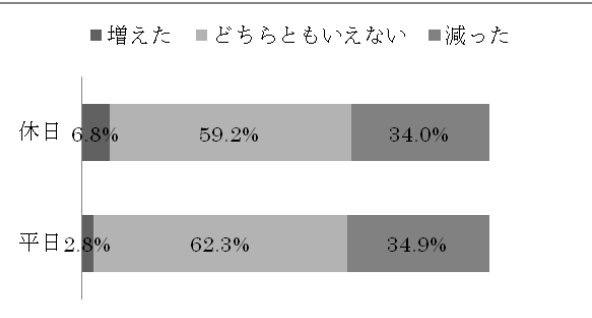
### ○ 人通り、来店者及び業況の減少傾向に歯止めがかかっている

計画策定時の平成 19 年度と比べ、人通り、来店者及び業況が「減った」という回答が平日休日ともに減少している。

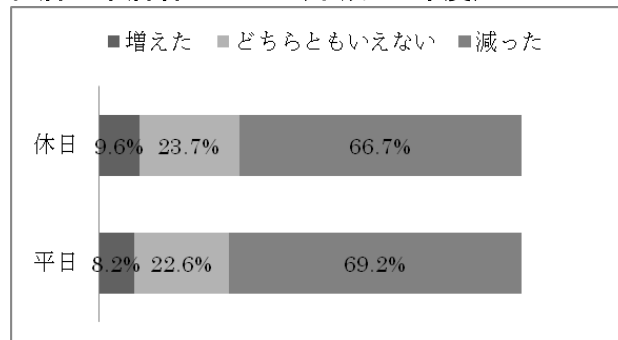
お店の前の人通りについて(平成 19 年度)



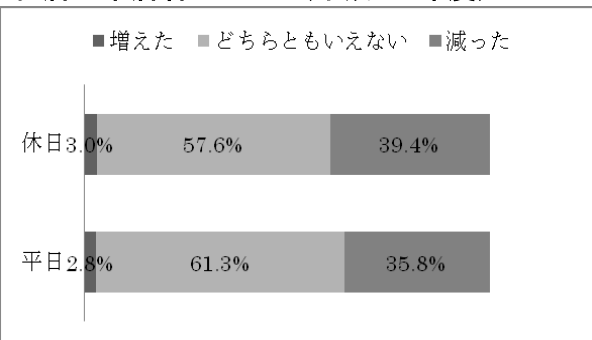
お店の前の人通りについて(平成 23 年度)



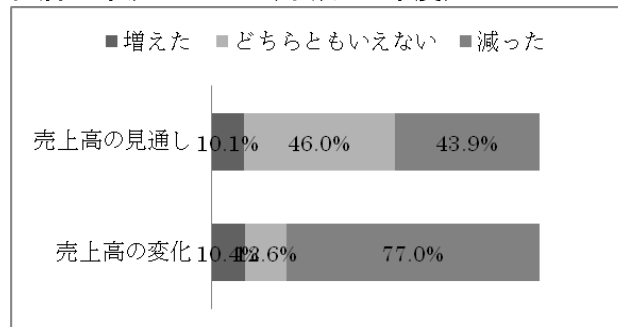
お店の来店者について(平成 19 年度)



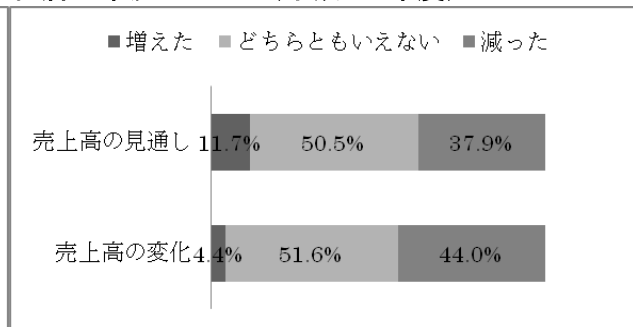
お店の来店者について(平成 23 年度)



お店の業況について(平成 19 年度)



お店の業況について(平成 23 年度)

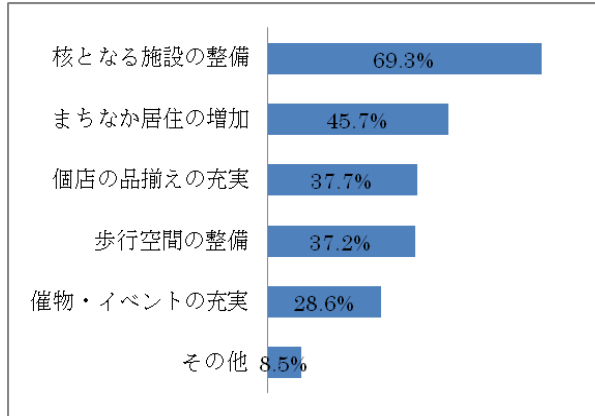


### ○ 「まちなか居住の増加」や「個店の品揃えの充実」を求める割合が上昇している。

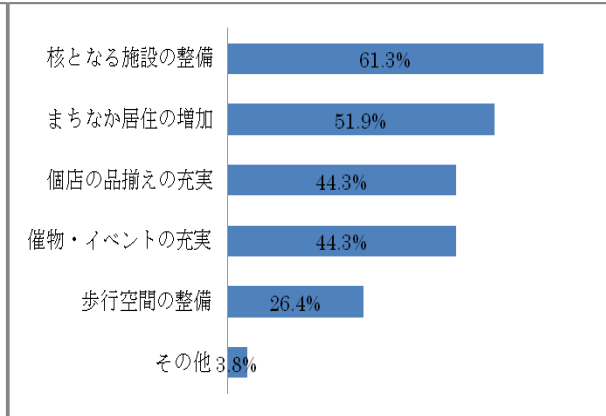
「核となる施設の整備」については、千葉中央第六地区の再開発事業完了もあり、求める割合が減少しているものの最も高く、千葉駅西口周辺地区の再開発事業への期待感が読み取れる。

また、ハード整備による「歩行空間の整備の充実」の減少と相反し、「個店の品揃えの充実」や、イベントに触れる機会が多くなったことから、より「催物・イベントの充実」を求める割合が上昇している。

### 活性化の取組について(平成 19 年度)



### 活性化の取組について(平成 23 年度)



## ◇ 居住満足度アンケート調査にもとづく把握・分析

### i. 調査実施時期

平成 19 年、平成 21 年、平成 23 年

### ii. 調査対象者・サンプル数

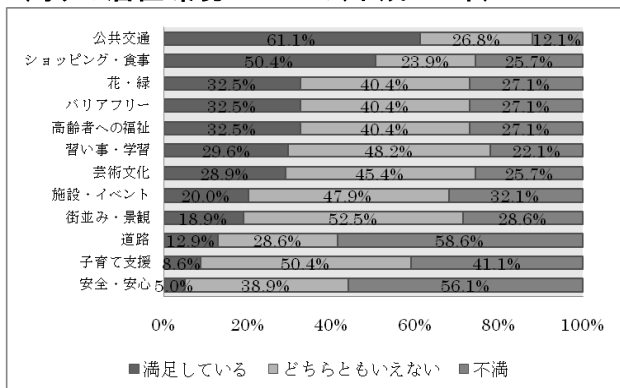
中心市街地に学区がある小学校に通学する生徒がいる世帯  
(H19:280 世帯、H21:329 世帯 H23:298 世帯)

## ○ 「公共交通」、「ショッピング・食事」についての満足度が引き続き高い

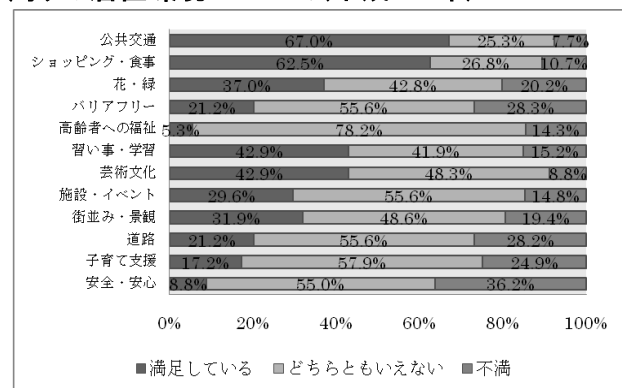
居住環境についての満足度では、「公共交通」(約 67%)、「ショッピング・食事」(約 63%) が引き続き高く、12 項目中 10 項目に満足度上昇がみられる。

また、不満度については、「バリアフリー」が上昇している以外は、減少している。

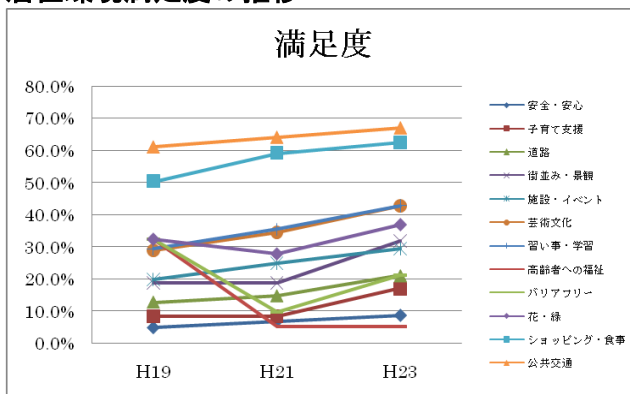
### 周りの居住環境について(平成 19 年)



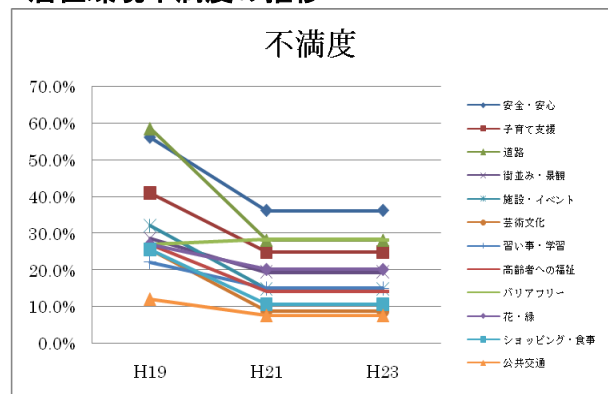
### 周りの居住環境について(平成 23 年)



### 居住環境満足度の推移

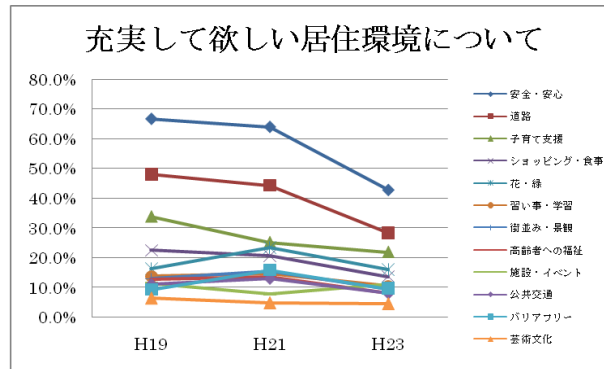


### 居住環境不満度の推移



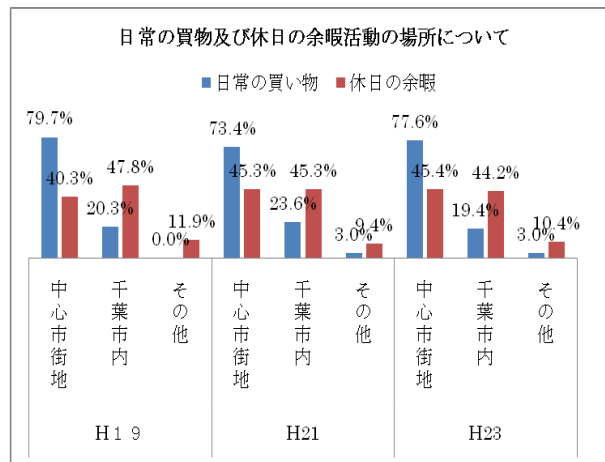
○ **居住環境について、満足度が高まっている。**

「安全・安心」、「道路」について、充実が求められている割合は高いものの、全体的に居住環境について、満足度が高まっている。



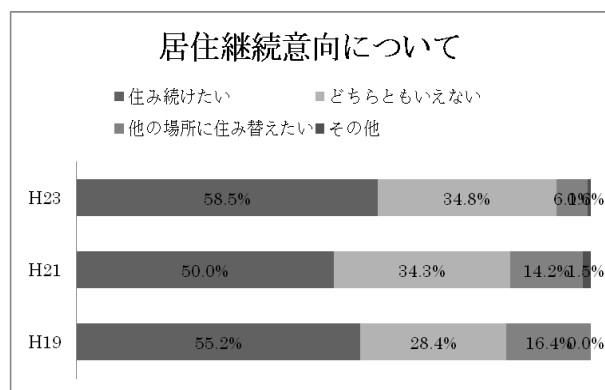
○ **日常の買物は中心市街地で、休日の余暇は中心市街地以外で行う**

日常の買物は中心市街地で行う世帯が多いものの、休日の余暇活動は中心市街地以外で行う場合が多い。この割合は、計画前後、横ばいで推移している。



○ **中心市街地の居住者は住み続ける意向が多い**

「他の場所に住み替えたい」が減少しているものの、中心市街地に住み続けたい意向は、計画前後、横ばいで推移している。



6. 今後の取組

計画期間は終了したが、計画に位置付けられていた各種事業の進捗を注視するとともに、既存事業の拡充や、商店街等中心市街地の各主体と連携した新規事業の実施など、更なる活性化を目指し、中心市街地活性化事業を継続する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
経済活力に満ちたまち	年間小売販売額 (億円)	2,004	2,005	1,864	H22.6	C
文化が薫り都心の魅力が あふれるまち	文化施設・都市福利 施設等の年間利用者 数 (万人)	16	89	110.4	H23.3	A
多彩な交流と出会いを育 む賑わいのあるまち	歩行者通行量 (休日 人)	18,476	23,800	21,688	H22.11	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

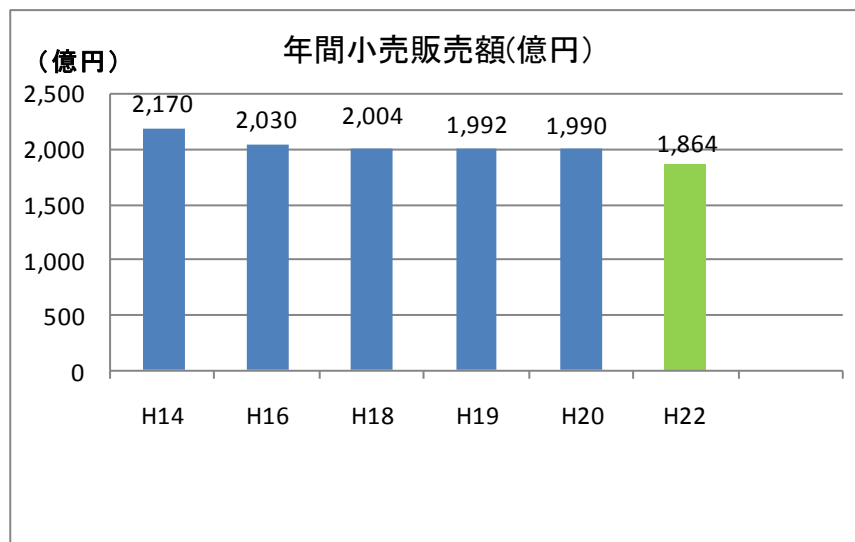
個別目標

目標「経済活力に満ちたまち」

「年間小売販売額（億円）」

※目標設定の考え方基本計画 P48～P50 参照

1. 調査結果の推移



年	(億円)
H18	2,004 (基準年値)
H19	1,992
H20	1,990
H22	1,864 (推計)
目標値	2,005

※調査方法；経済産業省の商業統計調査資料を基に算出

※調査月；毎年6月

※調査主体；経済産業省（商業統計調査、商業販売統計調査類推）

※調査対象；中心市街地エリア内の小売販売額

【総括】

「経済活力に満ちたまち」に資する事業は、千葉駅西口地区第二種市街地再開発事業を除いて、概ね予定どおり進捗・完了したが、平成22年の年間小売販売額は1,864（推計）億円で目標値の2,005億円には及ばなかった。

平成20年秋の金融危機による消費マインドの低下のほかに、インターネット販売の拡大や消費者ニーズの多様化など、小売業は複雑な外部環境への対応を求められる中で、中心市街地の回遊性や賑わいを向上させる施策に加え、各店舗においても購買意欲を刺激し、タイムリーにニーズに応えられる店舗戦略が求められている。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 千葉中央第六地区第一種市街地再開発事業（事業主体 千葉中央第六地区再開発組合）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成17年度～平成19年度
事業開始・完了時期	平成15年～【済】平成19年10月
事業概要	千葉市科学館、子育て支援館、ビジネス支援センターなどの公共公益施設や商業施設等が一体となった新たな拠点施設「きぼーる」を整備するための再開発事業。
目標値・最新値	(目標値)23.2億円 (最新値)22.8億円
達成状況	未達成

達成した（出来なかった）理由	平成 20 年秋の金融危機やインターネット販売の拡大、消費者ニーズの多様化の影響により、入居商業施設の小売販売額に影響があったため。
計画終了後の状況（事業効果）	「きぼーる」は、年間 74.3 万人来館予定であったが、予想を上回る 87.2 万人が来館、中心市街地の集客力を高めるとともに賑わいと活力の創出に貢献している。
当該事業の今後について	中心市街地内の回遊性向上に向けた拠点施設として、エリア内商業施設との連携が必要になっている。

②. 千葉駅西口地区第二種市街地再開発事業（事業主体 千葉市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成 20 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～【未】平成 25 年度
事業概要	千葉駅東口に集中している交通機能の分散と利便性向上及び駅直近の土地の高度利用を図る再開発事業。
目標値□最新値	(目標値)42.8 億円 (最新値)0 円
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	平成 20 年秋の金融危機や経済状況の悪化に伴い特定建築者が決定せず、事業進捗に遅れが生じたため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度に特定建築者が決定し、平成 23 年度に着工しており、竣工後の事業効果が期待される。
当該事業の今後について	平成 22 年度に特定建築者を決定し、平成 23 年度建築工事着工、平成 25 年度完了予定。

③. 栄町商店街環境整備事業（事業主体 栄町通り商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	中小小売商業高度化事業に係る特定民間中心市街地活性化事業計画の主務大臣の認定(平成 22 年度)
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【済】平成 22 年度
事業概要	電線地中化、老朽化アーケードの撤去と併せた街路灯等の再整備を行い、安心・安全で快適な歩行空間・商業環境を創出させ、魅力的な景観形成を図る環境整備事業。
目標値・最新値	(目標値)22 億円 (最新値)32.2 億円
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	CHIBA CENTRAL TOWER整備事業完了等により、中心市街地の人口が増加し、消費が拡大されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度に戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金の交付決定を受け、事業実施した結果、安心・安全で快適な歩行空間が創出され、中心市街地の回遊性、賑わいが高まっている。
当該事業の今後について	引き続き空き店舗対策事業の検討・実施、電線共同溝事業は平成 23 年度に実施設計を行い、平成 25 年度に着工予定。

④. 千葉銀座商店街環境整備事業（事業主体 千葉銀座商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	中小小売商業高度化事業に係る特定民間中心市街地活性化事業計画の主務大臣の認定(平成 22 年度)
事業開始・完了	平成 19 年度～【済】平成 22 年度

時期	
事業概要	千葉銀座に導かれるようなサイン・案内板の設置や、歩きながら学べる歩道の整備及びバリアフリー化、ユニークな街路灯の再整備、駐輪場の設置等により、休日の「きぼーる」来館者が通りたいくなる仕組みをつくるための環境整備事業。
目標値・最新値	(目標値)22億円 (最新値)32.2億円
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	CHIBA CENTRAL TOWER整備事業完了等により、中心市街地の人口が増加し、消費が拡大されたため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成22年度に戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金の交付決定を受け、事業実施した結果、「きぼーる」の高い集客力が中心市街地に賑わいを創出している。
当該事業の今□について	空き店舗を活用した世代・交流施設の展開。

⑤. CHIBA CENTRAL TOWER整備事業

(事業主体 オリックス・リアルエステート(株)、ニチモ(株))

事業開始・完了時期	平成18年～【済】平成21年2月
事業概要	共同住宅、商業施設を整備する開発事業
目標値・最新値	(目標値)22億円 (最新値)32.2億円
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	CHIBA CENTRAL TOWER整備事業完了等により、中心市街地の人口が増加し、消費が拡大されたため。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地の要である中央公園、きぼーる、千葉銀座に近接する場所に434戸の大型マンションが立地することにより、購買人口等の増加が図られた。
当該事業の今後について	平成21年2月事業完了

⑥. まちなかプロムナード活性化推進事業

(事業主体 千葉市中心市街地活性化協議会(千葉市中心市街地まちづくり協議会))

事業開始・完了時期	【実施中】平成19年度～
事業概要	中央公園を中心とした中心市街地の主要回遊導線上にある4つの通りにおいて実施するソフト事業のより効果的な実施について検討する
目標値・最新値	(目標値)88億円 (最新値)55億円
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	平成20年秋の金融危機や特定建築者未決定の影響を受け、商業施設整備に遅れが生じ、ソフト事業は活発に実施されたが、消費に結びつかなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	「きぼーる」1階アトリウムの愛称を市民から公募したり、女性を中心に幅広い人気があるフラダンスを定期的に「きぼーる」で開催し中心市街地内の賑わい創出を生み出した他、別々に実施されていたイベントの同時開催を促



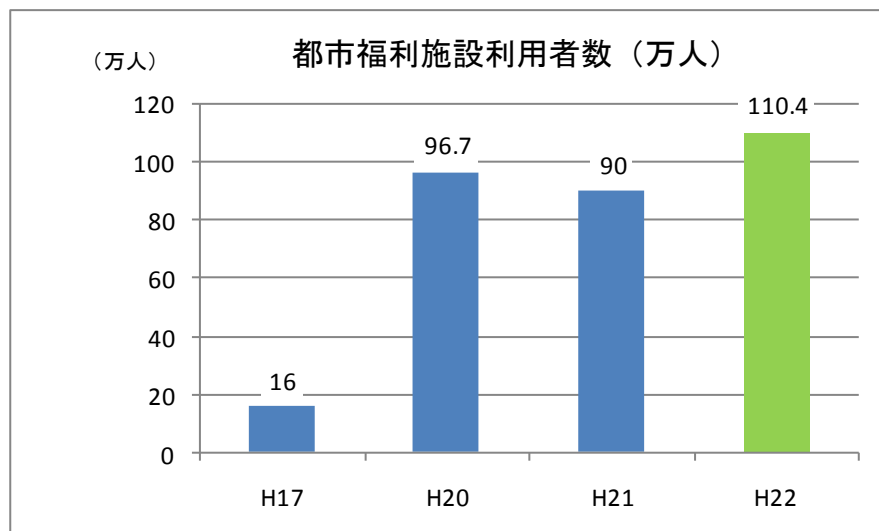
	すなど、回遊導線の回復につながる取組を行っている。
当該事業の今後について	市単補助休止により、一部休止事業はあるものの、主催団体による、事業の縮小・代替等で引き続き実施していく。

個別目標

目標「文化が薫り都心の魅力があふれるまち」

「文化施設・都市福利施設等の年間利用者数」  
※目標設定の考え方基本計画 P51～P53 参照

1. 調査結果の推移



年	(万人)
H17	16 (基準年値)
H20	96.7
H21	90
H22	110.4
目標値	89

※調査方法；対象施設への聞き取り調査

※調査月；毎年度（4月～翌3月）

※調査主体；千葉市

※調査対象；千葉市美術館、郷土博物館、きぼーる内各施設（ビジネス支援センター、中央保健福祉センター、千葉市科学館、子育て支援館、子ども交流館）の利用者

【総括】

「文化が薫り都心の魅力があふれるまち」に資する事業は、概ね予定どおり進捗・完了し、指標とした「文化施設・都市福利施設等の年間利用者数」は、平成22年（最新値）に110.4万人と目標値89万人を大幅に超えた。

特に、千葉中央第六地区再開発事業による「きぼーる（千葉市科学館、子育て支援館、ビジネス支援センターなどの公共公益施設や商業施設等が入居する官民複合施設）」は、それぞれの事業目的を確実に達成し、当初の予想を上回る利用者数を集め、中心市街地の拠点施設となっている。今後も中心市街地の拠点施設として賑わい創出に寄与すべく、都市に集う方々のニーズにマッチした、企画・イベント・展示等を実施していく。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 千葉市科学館整備事業（事業主体 千葉市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 (平成17年度～平成19年度)
事業開始・完了時期	平成17年～【済】平成19年10月
事業概要	子どもから大人まで市民が参加できる科学館整備事業
目標値・最新値	(目標値)33万人 (最新値)38.9万人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	プラネタリウムや科学についての多種多様な企画展が魅力を向上させ、市民の科学館周知が進み、校外学習での活用や、一般市民の利用も順調に

	増えたため。
計画終了後の状況（事業効果）	当初 33 万人来場予定のところ、38.9 万人が来場する人気施設となっており、人が集まる拠点の中核施設となっている。
当該事業の今後について	平成 19 年 10 月事業完了

②. 子ども交流館整備事業（事業主体 千葉市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 (平成 18 年度～平成 19 年度)
事業開始・完了時期	平成 18 年～【済】平成 19 年 10 月
事業概要	「子どもの遊び場の提供」「中・高生の居場所機能」を担い、子どもの交流と健全育成の拠点を整備する事業
目標値・最新値	(目標値)13 万人 (最新値)12.7 万人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	最新値は目標値に若干及ばなかったが、安心して子どもが遊べる施設として、市民の認知度が高まり、絵本の読み聞かせ等各種イベント開催による魅力向上で、利用者は定着した。
計画終了後の状況（事業効果）	当初予定どおり年間 12.7 万人の子どもが利用・活動する施設として認知されており、中心市街地への来街機能を高めるとともに、子どもの交流促進に大きく貢献している。
当該事業の今後について	平成 19 年 10 月事業完了

③. 子育て支援館整備事業（事業主体 千葉市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 (平成 18 年度～平成 19 年度)
事業開始・完了時期	平成 18 年～【済】平成 19 年 10 月
事業概要	乳幼児世代を中心に地域での子育てを支援し、子育ての相互援助活動促進のためのファミリーサポートセンター機能を備える地域交流施設を整備する事業
目標値・最新値	(目標値)4.1 万人 (最新値)8.0 万人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	孤立した子育てとならないように、来館者にゆったり和んでいただくことを考えた環境整備がされており、親子で遊べる、子育て相談のできる施設として認知度が高まり、利用者が定着したため。
計画終了後の状況（事業効果）	4 万人の当初予定を上回る 8 万人が来場しており、地域における子育ての拠点としての役割を果たしている。
当該事業の今後について	平成 19 年 10 月事業完了

④. ビジネス支援センター整備事業（事業主体 千葉市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 (平成 18 年度～平成 19 年度)
事業開始・完了	平成 18 年～【済】平成 19 年 10 月

時期	
事業概要	市内中小企業の経営及び創業支援をハード・ソフト両面から行う、千葉市の産業振興拠点施設を整備する事業
目標値・最新値	(目標値)12.1万人 (最新値)15.7万人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	ビジネスについての創業支援・経営支援・情報提供が受けられる施設として認知度が高まり、利用者が定着したため。
計画終了後の状況(事業効果)	12.1万人の当初予定を上回る15.7万人が利用する地域経済活性化の拠点施設機能を果たしている。経済情勢を反映し、窓口相談や支援制度の利用者が増加しており、貸出施設もリピーターが定着している。
当該事業の今後について	平成19年10月事業完了

⑤. ミュージアムトライアングル連携事業(事業主体 千葉市)

事業開始・完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	中心市街地内に立地している美術館、郷土博物館、科学館などの連携ネットワークを強化することにより、文化に触れやすく楽しめる環境作りを行うとともに、地蔵商店街との連携等によりまちの賑わい増進に寄与する事業
目標値・最新値	(目標値)89万人 (最新値)110万人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	美術館の企画展が大きな反響を得たため入館者が増加し、それに伴い郷土博物館、科学館へ足を運ぶ人も増加したため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成21年2月から3館相互割引制度を実施している他、21年12月には千葉銀座商店街と科学館でキャンドルナイトのイベントで連携を行うなど広がりが見られている。
当該事業の今後について	美術館の来館者数が平成22年度過去最高となるなど、多くのリピーターで賑わいを見せている。この来館者をいかに、中心市街地に回遊させるかが今後の課題である。

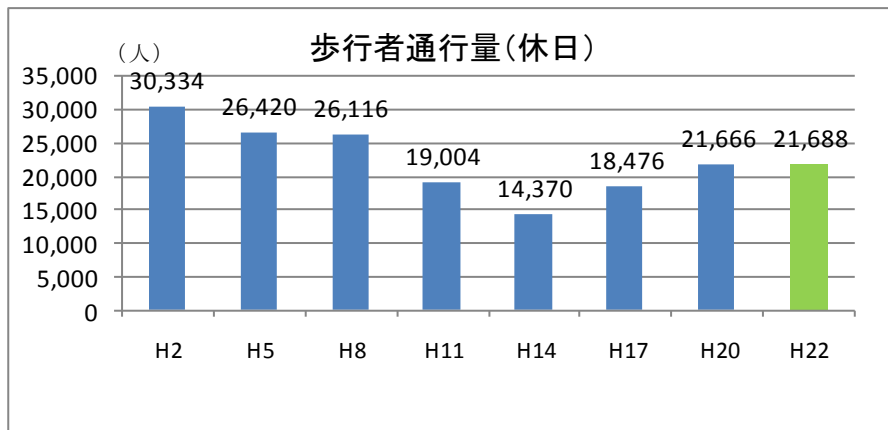
個別目標

目標「多彩な交流と出会いを育む賑わいのあるまち」

「歩行者通行量（休日）〔主要な回遊導線上の3地点合計〕」

※目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 調査結果の推移



年	(休日・人)
H17	18,476 (基準年値)
H20	21,666
H22	21,688
目標値	23,800

※調査方法；3地点へ調査員を配置し、平日1回・休日1回の8:00～20:00計測

※調査月；11月後半の休日

※調査主体；千葉市

※調査対象；歩行者のみ休日3地点（ハミングロードパルサ、JR千葉駅前、きぼ一る前）

【総括】

「多彩な交流と出会いを育む賑わいのあるまち」に資する事業は、概ね予定どおり進捗・完了したものの、平成22年の休日の歩行者通行量（最新値）は21,688人で、目標値の23,800人には及ばなかった。

その中で、千葉中央第六地区再開発事業の効果により歩行者通行量が大きく増加した地点もあり、拠点と拠点をつなぎ、集客力を街全体に波及させられるように、今後も民・官が連携し歩行者動線を創出していく。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 千葉中央第六地区第一種市街地再開発事業（事業主体 千葉中央第六地区再開発組合）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成17年度～平成19年度
事業開始・完了時期	平成15年～【済】平成19年10月
事業概要	公共公益施設や商業施設等が一体となった新たな拠点施設を整備するための再開発事業。
目標値・最新値	(目標値)2,010人 (最新値)6,204人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	「きぼ一る」が特徴的な外観とともに市民への周知が広まり、また各施設もそれぞれの目的にそった魅力あるイベントを開催した結果、来館者が増加し計測地点のきぼ一る前の通行量が増加したため。
計画終了後の状況（事業効果）	「きぼ一る」は、年間74.3万人来館予定であったが、予想を上回る87.2万人が来館、中心市街地の集客力を高めるとともに賑わいと活力の創出に貢献している。

当該事業の今後について	中心市街地内の回遊性向上に向けた拠点施設として、エリア内商業施設との連携が必要になっている。
-------------	--

②.千葉駅西口地区第二種市街地再開発事業（事業主体 千葉市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成 20 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 2 年度～【未】平成 25 年度
事業概要	千葉駅東口に集中している交通機能の分散と利便性向上及び駅直近の土地の高度利用を図る再開発事業。
目標値・最新値	(目標値)19,204 人 (最新値)13,840 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	本事業の進捗が遅れ現在工事中のため、計測地点のJR千葉駅の歩行者通行量の増加に寄与できなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	特定建築者制度を活用する予定であったが、平成 20 年秋の金融危機の影響を受け事業進捗が遅れていた。
当該事業の今後について	平成 22 年度に特定建築者を決定し、平成 23 年度建築工事着工、平成 25 年度完了予定。

③.栄町商店街環境整備事業（事業主体 栄町通り商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	中小小売商業高度化事業に係る特定民間中心市街地活性化事業計画の主務大臣の認定(平成 22 年度)
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【済】平成 22 年度
事業概要	電線地中化、老朽化アーケードの撤去と併せた街路灯等の再整備を行い、安心・安全で快適な歩行空間・商業環境を創出させ、魅力的な景観形成を図る環境整備事業。
目標値□最新値	(目標値)2,586 人 (最新値)1,644 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	本事業により商店街の安心・安全で快適な歩行空間・商業環境整備はされたが、計測地点のハミングロードの通行量に影響が少なかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度に戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金の交付決定を受け、事業実施した結果、安心・安全で快適な歩行空間が創出され、中心市街地の回遊性、賑わいが高まっている。
当該事業の今後について	引き続き空き店舗対策事業の検討・実施、平成 23 年度より電線共同溝事業の着手。

④.千葉銀座商店街環境整備事業（事業主体 千葉銀座商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	中小小売商業高度化事業に係る特定民間中心市街地活性化事業計画の主務大臣の認定(平成 22 年度)
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【済】平成 22 年度
事業概要	千葉銀座に導かれるようなサイン・案内板の設置や、歩きながら学べる歩道の整備及びバリアフリー化、ユニークな街路灯の再整備、駐輪場の設置等により、休日の「きぼーる」来館者が通りたくなる仕組みをつくるための環境整備事業。

目標値・最新値	(目標値)19,204人 (最新値)13,840人
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	本事業により商店街の環境整備はされたが、計測地点のJR千葉駅の歩行者通行量は、他の事業の進捗が遅れ現在工事中のため、通行量の増加には至らなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成22年度に戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金の交付決定を受け、事業実施した結果、「きぼーる」の高い集客力が中心市街地に賑わいを創出している。
当該事業の今後について	空き店舗を活用した世代間交流施設の展開。

⑤.CHIBA CENTRAL TOWER整備事業

(事業主体 オリックス・リアルエステート(株)、ニチモ(株))

事業開始・完了時期	平成18年～【済】平成21年2月
事業概要	共同住宅、商業施設を整備する開発事業
目標値・最新値	(目標値)23,800人 (最新値)21,688人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	本事業により居住人口が増加し、また拠点施設の確立及びまちなか居住環境の向上により、中心市街地内の回遊性が増したため。 (商業施設整備の進捗の遅れにより、目標値には達しなかったものの、平成20年秋の金融危機による小売販売額が減少するなか、歩行者通行量は基準値比117%と増加していることから、本目標は達成した。)
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地の要である中央公園、きぼーる、千葉銀座に近接する場所に434戸の大型マンションが立地することにより、購買人口等の増加が図られた。
当該事業の今後について	平成21年2月事業完了

⑥.まちなかプロムナード活性化推進事業

(事業主体 千葉市中心市街地活性化協議会(千葉市中心市街地まちづくり協議会))

事業開始・完了時期	【実施中】平成19年度～
事業概要	中央公園を中心とした中心市街地の主要回遊導線上にある4つの通りにおいて実施するソフト事業のより効果的な実施について検討する
目標値・最新値	(目標値)23,800人 (最新値)21,688人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	本事業により、にぎわいの創出がなされ、拠点施設の確立及びまちなか居住環境の向上により、中心市街地内の回遊性が増したため。 (商業施設整備の進捗の遅れにより、目標値には達しなかったものの、平成20年秋の金融危機による小売販売額が減少するなか、歩行者通行量は基準値比117%と増加していることから、本目標は達成した。)
計画終了後の状況	「きぼーる」1階アトリウムの愛称を市民から公募したり、女性を中心に幅広

況（事業効果）	い人気があるフラダンスを定期的に「きぼーる」で開催し中心市街地内の賑わい創出を生み出した他、別々に実施されていたイベントの同時開催を促すなど、回遊導線の回復につながる取組を行っている。
当該事業の今後について	市単補助休止により、一部休止事業はあるものの、主催団体による、事業の縮小・代替等で引き続き実施していく。

## 6. 今後について

現在、未達成事業の千葉駅西口地区再開事業については、平成 25 年度工事完了予定で着実に工事が進められ、その他にJR千葉駅舎・駅ビルの建て替え、千葉駅東口の再開発始動と、中心市街地への玄関口であるJR千葉駅周辺が今後数年間で大きく変わる状況の中、今後は、ソフト事業をより充実させる方向で、千葉駅から中心市街地である中央公園さらにはきぼーる等へ回遊性を高めるため、オープンカフェ事業や新たに開始する「バル」等の事業である「まちなかプロムナード活性化推進事業」や、科学館・郷土博物館・美術館を活かしたイベントや3つのミュージアムの連携による「ミュージアムトライアングル連携事業」等のソフト事業を今の時代に沿った内容で継続して実施していき、人々が集まる活気あふれる 中心市街地へと育てていく。